

# 小学校2年生を対象にした曲想の変化に気付かせる音楽科授業 －伴奏の変化を知覚する活動と拍を知覚する活動－

古田 美咲\* 新山王 政和\*\*

\*附属岡崎小学校

\*\*音楽教育講座

## A Music Class for 2nd Grade Elementary School Students to Notice Changes in Musical Ideas - Activities for Perceiving Changes in Accompaniment and Beats -

Misaki FURUTA\* Masakazu SHINZANO\*\*

\*Okazaki Primary School Affiliated to Aichi University of Education, Okazaki 444-0072, Japan

\*\*Department of Music Education, Aichi University of Education, Kariya 448-8542, Japan

Keywords：曲想の変化 伴奏型 拍

本報告書は、Ⅰ～Ⅲを実践者の古田美咲が執筆し、Ⅳを共同研究者の新山王政和が執筆している。

### Ⅰ はじめに

昨年度末から本校では各教科における「教科・領域特有の資質・能力」の見直しを行い、音楽科では「自分なりの感覚で音や音楽を感じ取る力」と「音楽的諸要素を視点として表現する力」の二つの力に改めた。この二つの力は、小学校学習指導要領の音楽編の共通事項にも示されている「知覚」と「感受」にあたる部分を見つめ直し、本校の問題解決学習では、どのような力と捉えることができるのか考えたものである。今回見直した二つの力は、実際にどのように高まっていくのか、小学校2年生の子どもたちを対象に、1学期実践「歌い方を考えて みんなで歌うよ 応援ソング～曲の感じに合った歌唱表現～」と2学期実践「曲の感じに合わせて ステップ踏みよ～カラスポットマーカーを使ったりリズム遊び～」を基に振り返ってみたい。

### Ⅱ 実践の実際

#### 1 応援ソングによる歌唱表現

#### (1) 実践が始まるまで

学級目標が「サスケ～2学級みんなでクリアしよう～」に決まり、それぞれが1年間でがんばっていきたいことを話し合った。母親をはじめ、家族や学級の仲間に応援されることで、がんばれる子どもたち。そこで、子どもたちから応援してもらいたいことばを集めたもので教師が作曲をして応援ソングとして子どもたちにプレゼントした。子どもたちは、自分たちが考えたことばが入っている応援ソングを気に入って、歌い出した。

【2年2学級 応援ソング】

The musical score is written on a grand staff with a key signature of one sharp (F#) and a 4/4 time signature. It consists of two systems of music. The first system has three staves of lyrics. The second system has two staves of lyrics. The lyrics are in Japanese and are about supporting each other and achieving goals.

1. ひ と つ 大 き く な っ て や る き が  
2. ひ と つ 大 き く な っ て や り たい こ とも  
3. し ヅ ば い も あ る よ ね ちや う と き

いっ ばいー め ざ す ゴー ル む か っ て  
いっ ばいー ご ほ う び に む か っ て  
も ー ー そん ー な と き にー は

本 気 で が ん ば る ぜ マ マ か ら の (フ ァ イ ト!) パ パ か ら  
本 気 で が ん ば る ぜ じ い ちゃん の (フ ァ イ ト!) ば あ ちゃん  
み ん な の あ い こ と ば (サ ス ケ!) マ マ か ら の (あ り が と う) パ パ か ら

の (フ ァ イ ト!) ぼ く も わ た し も み ん な が お う え ん し て い る よ あ な た な  
の (フ ァ イ ト!) と お い と お い ば あ ば も お う え ん し て い る よ あ な た な  
の (あ り が と う) み ん な の が ん ば り み ま も っ て る あ な た な

ら (で き る) が ん ば れ ば (で き る) (イ ェ イ!) い け い け が ん ば れ  
ら (で き る) が ん ば れ ば (で き る) (イ ェ イ!) い け い け が ん ば れ  
ら (で き る) が ん ば れ ば (で き る) (イ ェ イ!) い け い け が ん ば れ (ヤ ア!)

## (2) 曲想の変化に気づく子どもたち

何度も歌っていくなかで、2番が終わった後の間奏から、曲想が変化することに気づき始めた。それは、これまで4分音符を刻んで拍を取っていたピアノ伴奏が、ここからは全音符や2分音符となっていること、さらに、3番の歌詞の冒頭が「失敗もあるよ 寝ちゃうときも」と、今までの前向きな歌詞から大きく変化していることが理由としてあげられる。子どもたちは、その変化に気づき、身体を動かすことをやめて、弱く歌い始めた。そして、「そんなときには」の後の「みんなの合言葉（サスケ!）」で、ボルテージは最高潮となり、ジャンプしながら再び勢いよく歌い始める姿があった。

## (3) 仲間の考えから見つけ出す姿

曲想の変化に気づいたが、弱くした歌声をどこから再び強くすればよいのか戸惑う姿があった。それは「そんなときは」の部分が、どちらにもとれるからである。子どもたちの歌い方メモを見ると、何も書けずにいる子どもの姿があった。

【～な感じと説明する姿】



それは、どのように歌えばよいのか迷う姿であった。そこで、それぞれの歌い方メモを比べた後、かかわり合いを行った。すると「ぼくも何かこういう感じで歌っているなあ」と、次第に強くしている仲間の歌い方に注目した。その考えに対して「山みたいな感じ」「だんだん上がっていく感じ」と、周りの子どもが考えを伝え、それぞれが感じていることを言葉にして共有した。かかわり合いを通して、自分の考えを改めて考えた。そして、歌い方メモが書けずにいた子どもは「あがってるかんじ」と書き加えた。



このように、子どもたちは追求したり、仲間とかかわり合ったりしながら、自分の音楽を見直していった。そして、感じている歌い方をはっきりとさせ、より理想の歌声に近づけようと歌唱表現を変えていき、応援ソングを完成させることができた。

## 2 カラースポットマーカーを使ったりリズム遊び

### (1) 実践が始まるまで

お昼の放送で「恋ダンス」が流れたことをきっかけに、学級で踊ってみると難しいと感じて辞めてしまう子どもたち。一方で「ジャンボリミッキー」のように、簡単に覚えてしまえば楽しく踊ることができる姿も見られた。この姿からは、踊りたい気持ちがあるということがわかる。そこでキッズダンサーにカラースポットマーカー（以下カラーマット）があるとダンスのステップがやりやすくなることを紹介してもらい、実際に体感する機会を設けた。その後、教材曲「かくしん的☆めたまるふお～ぜっ!」と出会った。子どもたちはカラーマットを使えばステップが踏めそうだと、曲を聴きながらステップを踏み始めた。

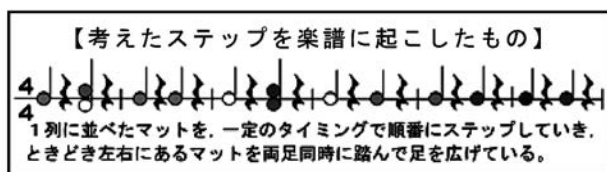
### (2) 曲想の変化に気づく子どもたち

ステップを踏み始めた子どもたちは、まずは拍に合わせてステップを踏もうとする姿を見せた。速いテンポに合わせてステップを踏むことに難しさを感じた子ども

【考えたステップを踏む姿】



は、2拍ずつステップを踏み換えるようになった。



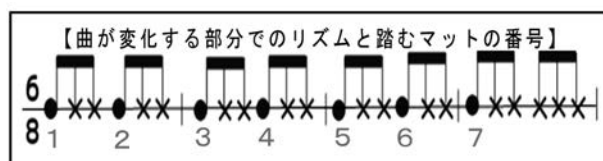
拍に合わせてステップが踏めるようになると、次は、拍子が途中で変化することで生じている曲想の変化に気づいた。この曲は、4分の4拍子の曲が途中で8分の6拍子に変化しており、ここまでアップテンポでビートを刻んでいる曲が、8分の6拍子に変化する部分になると大きく2つのまとまりに括られて、ゆったりとした感じを受けやすくなっている。子どもたちは、その変化に気づき、曲想の変化に合わせてステップも変えたいと思い始めた。

### (3) 仲間の考えから見つけ出す姿

曲想の変化に気づいてはいるものの、実際に自分のステップを動画で撮って確認してみると、変化がわからないステップだということに気づいた。そこで、仲間のステップと比べる機会を設けると、変化がわかる仲間のステップが気になりだした。仲間のステップの仕方を体感しながら追求を見直すかかわり合いを行った。すると、曲の感じが変わるところで、ステップを踏むときの数の数え方や数を数える速さを変えたりすれば、曲の感じの変化とともにステップも変化させることができるのではないかと考えた。

かかわり合い後、曲想が変化するところで数の数え方を変えてみよう、曲を聴きながら曲の感じに合うステップの数え方を考え出した。そして、4拍子の部分は、4カウントずつ数えて、写真の番号の順番に1拍ごとステップを踏んだ。さらに、8拍目は、その場で休みを入れて、フレーズごとに前へ移動したり、後ろへ移動したりするようになった。また、8分の6拍子の部分は、ステップを踏む順番に変化はないが、大きく2つのまとま

りにして、ゆっくり1・2・1・2…と、数えてステップを踏んでいた。ステップを踏むリズムとマットの順番は以下の通りである。



このように、子どもたちは追求したり、仲間とかかわり合ったりしながら、自分のステップを見直していった。そのなかで、拍に合わせるだけでなく、曲想を感じ取り、曲の感じに合うものを見つけて、満足のいくステップを完成させることができた。

## Ⅲ 実践者によるまとめ

今回見直した音楽科としての教科・領域特有の資質・能力が、単元を通して、どのように高まっていったのかを二つの実践によって検証した。そのなかで、二つの力のうち、「自分なりの感覚で音や音楽を感じ取る力」が、どのように高まっていったのかということを教師が見取っていくことの難しさを感じた。子どもの姿から、そのときどきの高まりを把握したり、ここまでどのようにして高まっていったのか、そのきっかけは何だったのかなどを鮮明に見取っていけるようにしたりしたい。また、見直した教科・領域特有の資質・能力についても、引き続き、様々な学年や分野においても実践していき、さらに更新していけるとよい。

## Ⅳ 共同研究者の所感（新山王執筆）

参観者の眩きや協議会で話題に挙がった内容を中心に所感をまとめたい。



### ①活動のパターン化とパターン学習の違い

今回の見学者から「教えてしまって練習させればいいのに」旨の呟きが聞こえた。たしかに音楽では同じことを何度も繰り返すことで習得させる活動が多くなる。Active Learningの「習得－活用－探究」も、そのどこから始まって構わないし、二つの活動の間を行ったり来たりするのもよいとされているが、「習得」を蔑ろにした学習活動は深まりにくいし主体的に取り組もうとする意欲も削いでしまう。つまり「習得」の段階を欠くと低レベルの活動に停滞し、達成感や成就感を得にくい活動に陥ってしまいかねない。このように主体的な学習活動を下支えする「習得」のためには、どうしても「活動のパターン化」が必要になり、活動や練習のパターン化の影響は主体的な学習にも波及する。

しかし間違えてはならないのは、この「活動のパターン化」と音楽の構造的なルールやパターンを丸暗記させる「パターン学習」を混同しないことである。パターンの丸暗記とは「こうくれば、こうなる」や「こうきたら、こうする」などの音楽的なルールを丸暗記して、それを基に組み立てたり並べ替えたりするものである。この例の一つに、モーツァルトが確立したとも言われている「機能と声理論」があり、これを活用した「音楽のサイコロ遊び C-dur, K6.516f」はよく知られている。「機能と声理論」とは和音の繋げ方のマニュアルとも言えるものだが、今ではこの理論から外れた曲も多く聴かれるようになっており、音楽の多様化が進んでいる。

よって、自分なりに音楽を聴きこむ活動のパターン化を身に付けることによって、子供の中に生じる「えっ？」的な驚きの感覚や疑問、時には違和感などをきっかけとして、将来子供達が自分なりの価値観を創出していく基盤にもなり得る授業を工夫してほしい。

### ②「拍」そのものに気づかせて意識させる

拍（ビート）へ体の動きを合わせるために

は、「音楽を聴いて拍を特定する→その拍間（ビートとビートの間隔）を分析する→次のビートが来る予期を行う→来るべきビートのタイミングに合わせて、必要な先行動作（予備動作、じゃけんの前ぶりなど）を前もって開始する）」という統合処理が必要になる。つまり拍を捉えた身体動作を授業で取り上げるためには、拍の存在に気づかせて拍を聴き取るという、拍に合わせるための予備的な学習が十分に用意されていなければならない。かつては運動会の入場行進やダンスでこの能力が培われたり、音楽教室ではユーリズミクス（eurythmics：リトミックなどの拍やリズムへ身体動作を合わせる活動）が指導されたりしていた。今回の実践ではこのような予備的な学習が不足しており、児童の中には「音楽は体を動かす合図」や「音楽が流れている間は体を動かし続ける」と誤解していると思われる者もいた。「3割現象（子供の3割はできて他の3割はすぐにはできない）」が当てはまり、残りの4割の子供が拍を知覚できるようにすることが授業の目標になる。

### ③拍が特定できなければ拍子の理解は難しい

多くの子供は音楽を「1拍子」として捉えている。「3拍子の曲に合わせて歩けない」と思い込むのは3拍子の仕組みと2本足で歩くと不一致を起こすことを知っているからであり、3拍子の仕組みを理解していない子供は違和感なく1拍子で歩くことができってしまう。中には「踏み込む足が右と左で交互になって面白い」と感じる子供も現れるが、それは別の意味で素晴らしい感性とも言える。

以前の小学校学習指導要領では「拍のながれ」（拍のまとまり方、グルーピング：拍子の基礎概念）を扱うことになっていたが、現行の小学校学習指導要領では「拍のながれ」の概念を学習する前の段階で「拍」そのものを知覚できるようにすることをより重要視している。つまり子供の音楽能力の発達段階を考慮したものであると言えよう。